

令和4年度事後調査報告書についての委員意見(名谷)

No.	委員からの質問、意見	事業者回答
1	<p>降下ばいじんの調査について 環境保全目標値10t/km²・月はスパイクタイヤ粉じんを対象としたものが根拠となっており、大きな値です。 また、事後調査結果の4t/km²・月超の値 (P32)は小さな値とは言えません。「防塵対策は万全」(P31、4行目)と決めつけるのではなく、事後調査報告書に記載されている通り、「環境保全目標を下回ったことでよしとすることなく、一層の環境保全措置に努める」ことに励んで欲しいです。</p>	<p>工事は終了しましたが、供用後においても「環境保全目標を下回ったことでよしとすることなく、一層の環境保全措置に努める」ことに励んで参ります。</p>
2	<p>P20の降下ばいじんの測定結果を拝見しますと、確かに環境保全目標は満たしていますが、敷地境界Bの4.47 t、Cの3.92 tはかなり高い値となっています。その原因として考えられる工事内容、散水等の対策が行われていたのかどうかについて確認させていただきたいと思えます。</p>	<p>工事内容は基礎工事などおおがかりな土工事が実施され、土粒子の舞上がりはかなりありましたが、タイヤ洗浄、散水車による散水、防塵ネットの設置等、環境保全措置は可能な限り実施しておりました (P27参照)。</p>
3	<p>(1) 要約P4で「振動は敷地境界Aで予測値を上回っていた」と述べているにも関わらず、特段の説明も無く「以上より、事業者として可能な限り環境影響の回避低減が図られていると考える。」との結論につなげているのは違和感があります。少なくとも、予測値より上回っていたのがどの程度なのか、環境保全目標との関係はどうなのか、などについて述べたうえで、それをどう評価したかについて記述していただいた方が良いのではと考えます。また、P59で「敷地境界の振動は表3-45に示すように、全ての地点で環境保全目標である振動・・・の基準を満たしており、予測値も下回った」と記述されていますが、要約で述べられているように敷地境界Aでは最大値は予測値を上回っており、より具体的に記述するか、「平均値では」といった文言を追加する必要があるのでは無いでしょうか。</p> <p>(2) 同様に要約P5で「工事前に生息を確認した重要種7種のうち、2種を確認した」と述べているにも関わらず、特段の説明も無く「以上より、事業者として可能な限り環境影響の回避低減が図られていると考える。」との結論につなげているのも違和感があります。7種のうち5種が確認できていないのであれば大きな影響があったと考えるのが一般的だと考えます。</p> <p>(3) 関連して、P104、108の「トゲツヤイシアブ、ヤマトアシナガバチは工事により生息地が狭まったが、残された樹林等に生育している可能性がある」という判断は十分な根拠があるとは考え難く、表現として適切では無いと考えます。</p>	<p>(1)について 要約版では概要説明のため、説明不足でした。A地点で予測値の30dBを上回ったので、工事実施時刻前の早朝7:00～8:00であり、工事とは異なる要因と考えられます。説明を追記いたします。 また、予測値を上回るものの、人が感知できないレベルの振動であり、基準値より低値であることも追記いたします。評価については、「平均値では」を追加いたします。</p> <p>(2)、(3)について 要約版では概要説明のため、説明不足でした。報告書p108に記載した通り、工事中に確認できなかった5種の内、ハヤブサとキビタキは工事前に上空を通過したのみと考えられ、トゲツヤイシアブ、ヤマトアシナガバチ、マイマイツツハナバチは飛翔能力があり、周辺の類似環境に生息している可能性はあると考えますが、今後、実施予定の供用後の調査で生息を確認します。</p>
4	<p>要約P5「(3) 植物・動物 (P61～108) (i) 調査結果の評価・工事前に生息を確認した重要種7種のうち、2種を確認した。」 工事前には確認できなかったものが工事後に確認されたということもあるようですので、調査の限界があるのかもしれませんが。 ただ、どうしても動植物への影響は不可避だということをあらためて感じました。</p>	<p>工事により生息環境が縮小することは事実であり、動植物への影響は全くない訳ではありません。しかし、工事中の森林の伐採は、生息する生物が移動できるよう、段階的に実施するなど、可能な限り動植物への配慮をしました。供用後は緑化等に努め、確認できなかった重要種が戻ってくるよう努力いたします。</p>
5	<p>報告書に、苦情の有無についても記載すべきです。</p>	<p>今年度は苦情はありませんでした。今後、供用後の事後調査報告では、苦情の有無について、記載いたします。</p>
6	<p>計画どおりに調査が実施されていることを確認いたしました。 一方でそれなりの土地面積が造成されており、降雨の流出過程、下流河川での流量ピークが変化する可能性があると思いました。過去の経緯を十分把握できておらず、申し訳ないのですが、下記ご教示いただけますと幸いです。 雨天時にも洪水調整池が十分な治水機能を発揮したかどうか、福田川の水位ピークや水質への影響は問題なかったのか、という点が気になりました。が、これらは事後調査計画に含まれていないので、今回は議論の対象外でしょうか。</p>	<p>防災計画としては洪水調整池を2ヶ所配置し、雨水の流出調整を図ったのち事業区域下流を流れる二級河川福田川へ放流することとしておりました。また、工事中の雨水排水は沈砂池でにごりを除去し、公共水路に排出するため影響はないとして水質を選定しませんでした。降雨は洪水調整池等で蒸散及び地下浸透させたため、場外へ流出した雨水が流出下流河川に影響を与えることはなかったと推測します。</p>